

# 山武稲作情報 第5報

(2022年7月27日発行)



山武農業事務所 改良普及課  
TEL: 0475-54-0226  
FAX: 0475-52-7914

## 山武地域の生育状況

7月中旬までは、ほぼ平年並みの気温で推移しました。6月中旬までに幼穂形成期を迎えた品種の出穂期は平年並みに迎えましたが、6月下旬に幼穂形成期を迎えた品種は、高温の影響もあり、幼穂形成期から出穂期までの期間が短くなりました。現在、5月中旬に移植された「コシヒカリ」「粒すけ」などは出穂期を迎えています。

いもち病、紋枯れ病などの発生はあまり多く見られませんが、発生が確認されたほ場では、農薬使用基準の収穫前日数を確認し、防除を適宜行いましょう。山武地域管内ではイネカメムシ及びアカスジカスミカメの発生が散見されています。

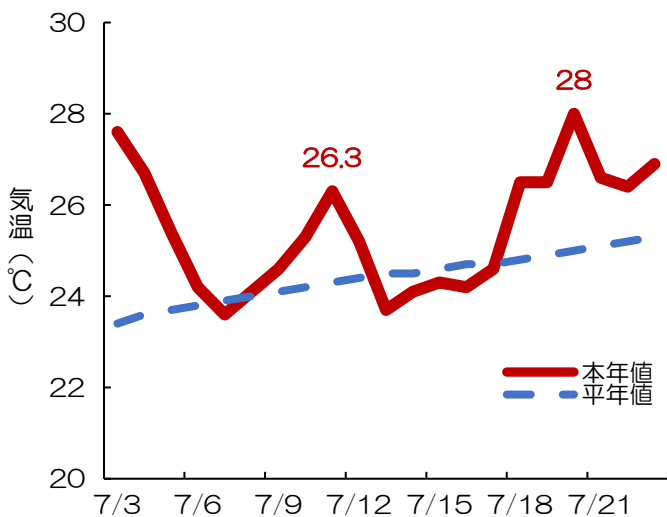


図1 日平均気温の推移 (アメダス、横芝光)

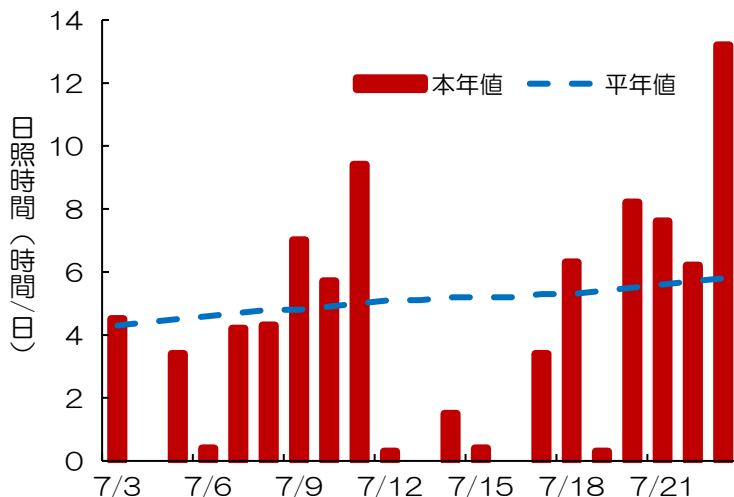


図2 日照時間の推移 (アメダス、横芝光)

## 収穫期予測 (7月25日現在) \*1

移植日	品種			
	ふさおとめ	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
4/20	8/9	8/14	8/23	8/22
5/1	8/16	8/21	8/30	8/30
5/15	8/25	8/30	9/8	9/8

\*1 予測日は水稻生育予測システム「でるた™」(運用試験版)を用いて予測しています(アメダス横芝光)。移植時の苗の葉齢、活着状況、ほ場の気象条件、予測日以降の気象条件により誤差がある場合があります。

\*2 詳細は病害虫防除課のホームページをご覧ください。



## 病害虫発生予察情報 (7月20日現在) \*2

病害虫名	予想発生量	防除上の注意事項
いもち病	やや多い	葉いもちの発生しているほ場では、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除する。さらに多発する場合は穂揃期にも薬剤防除する。
紋枯病	平年並み	穂ばらみ期に発病株率 15%以上の場合、薬剤防除する。
斑点米カメムシ類	並~やや多い	ほ場の状況に合わせて薬剤防除する。
セジロウンカ	平年並み	7月中旬頃に株当たり 10 頭以上寄生していた場合には薬剤防除する。
ヒメトビウンカ	平年並み	幼穂形成期を迎えていない水田でイネ縞葉枯病が多発している場合は、薬剤防除する

## これからの管理について

気象庁の1か月予報（令和4年7月21日発表）によりますと、**8月の気温は平年より高い見込み**となっています。暑さに負けない米作りのポイントを確認しましょう。

### ☛ 出穂後～収穫期までの水管理 ☛

高温条件下で長期間湛水管理を行うと、水温が上がり土壌の還元化が進むことで根腐れを起しやすくなります。**出穂2週間後以降は間断かんがい（湛水・落水状態を数日間隔で繰り返す方法）**で管理しましょう。

今年は梅雨明けが早く、十分に中干しできたほ場が多く見られます。品質の低下を防ぎ、籾を充実させるため、**早期落水は控え、出穂後30日を目安に落水**しましょう。

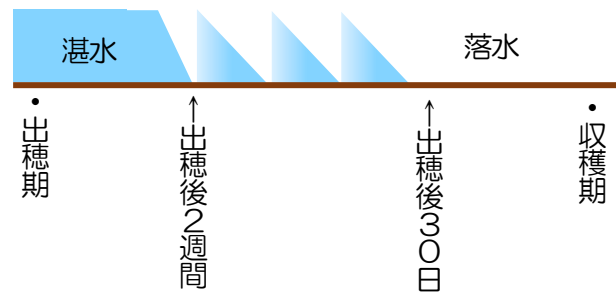


図3 出穂後の水管理

### ☛ 刈り取り適期の確認 ☛

高温条件下では、登熟期間が短くなることもあるため、帯緑色籾歩合も確認し収穫適期を見極めましょう。（詳細は、水稻の生育状況と当面の対策第5報参照）

## コラム③ 肥料価格高騰への対策について

近年肥料価格が高騰しています。そこで、今回は肥料低減に向けた取組について紹介します。

### ① 稲わらのすき込み

稲わらはすき込むことにより土壌の物理性改善が期待できます。また、5年以上連用することで、窒素成分の放出も期待できます。以下の点に注意して稲わらを活用しましょう。

☑ 秋の早い時期にすき込む

☑ 複数回耕うんする（秋耕＋3月までに2回＝計3回）

☑ すき込む際は深耕を避ける（標準の耕深は15cm）

すき込みが遅れたり深耕したりすると稲わらの分解が遅れ、次作において還元害が発生しやすくなります。

### ② 堆肥の利用

堆肥は土壌の物理性改善や、肥料の代替としての効果が期待できます。主な堆肥の特徴は表のとおりです。ただし、堆肥は製造元によって成分含量が異なるので、袋などに表示されている成分を確認してから使用しましょう。

表 主な堆肥の特徴

堆肥の種類	肥効	窒素以外の主な成分	物理性改善	肥料代替
鶏ふん	速い	りん酸	×	◎
豚ふん	やや速い	りん酸	△	○
牛ふん	やや遅い	加里	◎	△

堆肥をお探しの際は、県内産堆肥の検索ができる千葉県ホームページ

「千葉県堆肥利用促進ネットワーク」を御活用ください。

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/chikusan/taihiriyou/index.html>) 四次元バーコード⇒



## 生育調査結果

\*本年値の( )内は平年比(過去10年、ふさこがね、アキヒカリ、夢あおばは過去2年)との差を示しています。

\*出穂時の葉色は、カラスケールによる数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

### コシヒカリ

場所・移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色*	成熟期予測
東金市 5/3 移植	本年	6/30(+4)	7/22(+1)	4.1(97%)	8/29
	前年	6/23	7/23	3.7	8/31

### ふさこがね

場所・移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色*	成熟期予測
山武市 5/7 移植	本年	6/24(+3)	7/14(-5)	4.7(91%)	8/20
	前年	6/20	7/17	5.5	8/25

### ふさおとめ

場所・移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色*	成熟期予測
山武市 4/27 移植	本年	6/24(+6)	7/13(±0)	5.2(105%)	8/15
	前年	6/16	7/12	6.2	8/16

### アキヒカリ

場所・移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色*	成熟期予測
山武市 4/30 移植	本年	6/24(+8)	7/8(-1)	4.5(94%)	8/17
	前年	6/16	7/9	5.6	8/18

### 夢あおば

場所・移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色*	成熟期予測
山武市 5/19 移植	本年	7/8(+8)	7/25(-3)	5.0(100%)	9/3
	前年	6/30	7/26	5.1	9/9

## 農林総合研究センター 成東育成地による生育調査結果

\*本年値の()内は平年値との差を示しています。

\*出穂時の葉色は、カラスケールによる数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

品種 移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色	成熟期予測
コシヒカリ 4/25移植	本年	6月27日(+3)	7月20日(-1)	4.0(102%)	8月26日
	前年	6月23日	7月18日	3.9	8月24日
ふさこがね 4/25移植	本年	6月19日(+2)	7月10日(-3)	4.5(97%)	8月14日(-1)
	前年	6月17日	7月14日	4.4	8月18日
ふさおとめ 4/25移植	本年	6月16日(±0)	7月8日(-4)	4.7(106%)	8月10日(±0)
	前年	6月15日	7月12日	4.6	8月14日
粒すけ 4/25移植	本年	6月27日(+4)	7月20日(+2)	4.8(114%)	8月26日
	前年	6月23日	7月18日	3.8	8月24日
粒すけ 5/16移植	本年	7月5日(-1)	-	-	9月9日
	前年	7月6日	7月30日	4.1	9月5日